各会議の報告

- (1) 文京区地域移行支援検討会議
- (2) 文京区精神障害者支援機関実務者連絡会
- (3) 文京区地域生活安定化会議

地域精神保健福祉連絡協議会

< 会議体としての「協議の場」 >

保健・医療を起点とした
基盤整備の検討

統合した
地域づくり
の検討

福祉を起点とした
基盤整備の検討

地域移行支援検討会議

精神障害者支援機関
実務者連絡会

地域生活安定化会議

地域基盤の整備
の軸

支援体制の整備
の軸

個別支援の検討
の軸

- ・保健・医療に係る資源等の活用・開発
- ・地域の実情に応じた施策・制度等の検討

- ・保健・医療提供体制の構築
- ・体制構築に向けた課題抽出

- ・個別課題解決
- ・個別ケースから見える地域課題の抽出

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けた議論の統合

- ・障害福祉サービスに係る資源等の活用・開発
- ・地域の実情に応じた施策・制度等の検討

- ・障害福祉サービスの提供体制の構築
- ・体制構築に向けた課題抽出

- ・個別課題解決
- ・個別ケースから見える地域課題の抽出

それぞれの会議
から課題を抽出

(1) 文京区地域移行支援検討会議

<目的>

長期入院者の地域生活への移行を促進するため、文京区の基盤整備のための取り組みを強化する

「にも包括」の構築にあたっては、**地域基盤の整備の軸**に沿って検討

なお、東京都地域移行コーディネーターに出席いただき、支援への助言や他地域の情報提供を受けている

<実施予定>

年4回 (5月、8月、11月、2月)

<主な議題>

1. 地域移行支援を利用している**対象者報告**
2. 基盤整備量の検討に向け、**長期入院後に退院した人の状況を検討、意見交換**
3. 長期入院施設を対象とした**調査の検討** (障害者(児)実態・意向調査)³

1. 地域移行支援を利用している**対象者報告**

➤ 令和5年度実績：1名

2. 基盤整備量の検討に向け、**長期入院後に退院した人の状況を検討、意見交換**

<個別ケース検討で出た意見① **退院の促進要因**>

■地域移行給付を利用せずに既存の支援者チームで地域移行実施

- ・症状安定し、支援者への拒否感が消え、関係性が構築された

■自立生活援助サービスの代替利用

- ・自立生活援助事業所は区内にない 代替として区独自事業の安定化や計画相談の一般相談、障害福祉サービスの移動支援を利用した

< 個別ケース検討で出た意見② 退院の阻害要因 >

■長期入院の要因

- ・ 病状不安定：病院内での関わりやデポ剤の奏功で病識向上につながった
- ・ 家族関係：家族から入院継続希望が強い、または家族（支援者）不在で、退院支援が進まなかった
- ・ 病院立地：遠方で連携が取りづらい
- ・ 本人の状態：入院長期化に伴う加齢性変化や病状悪化等にて、徐々に本人の退院意欲が減退、もしくは意向表出が難しくなる

▶地域から病院に出向いていく機会を大切に、長期入院を防ぐためにタイミングを適切に捉えていく必要がある

一つの機会が今回の長期入院者の量的・質的調査である

3. 長期入院施設を対象とした調査の検討

<令和4年度文京区長期入院者（1年以上）患者調査の概要>

➤調査方法

- ・ 令和4年度実施の文京区障害者（児）実態・意向調査
「(1)量的調査（アンケート調査）の⑤長期入院施設を対象とした調査」
- ・ 令和4年10月3日～10月31日に都内65の精神病院へ調査票配布し、
53病院から回答が得られた
- ・ 返答があった53病院のうち、該当者（長期入院者）がいる病院は31病院
該当者は全部で48名
- ・ 「入院治療が不要で退院の希望があり取組説明に行ける該当者」は、11名
（8病院）
- ・ 量的調査結果から得られた該当者11名（8病院）に対し、質的調査を実施
- ・ 65歳未満の7名へは令和5年度、65歳以上の4名には令和6年度に質的調査を実施

< 事例検討で出た意見 >

■ 課題

- ・ 医療連携：遠方、病院情報の不足 医療機関の意見を聞ける機会があると良い
→ 今後、他区の病院と地域の連絡会を視察予定
- ・ 動機づけ支援：給付までのつなぎをどの機関が担うのか
- ・ 病識獲得の難しさ
- ・ 家族関係：本人と家族の退院意向が乖離している 一同に介して支援体制構築の必要性あり

➤ 課題・解決策案を整理し、**地域基盤整備**につなげていく

(2) 文京区精神障害者支援機関実務者連絡会

<目的>

顔の見える連携体制を作る。

実務者クラス協議の場として、現場の課題やアイデアの提案を行う。

当事者の意見の吸い上げを行う。

「にも包括」の構築にあたっては、**支援体制の整備の軸**に沿って検討

<実施予定>

第1回：9月6日 薬剤師の実際を知り、連携について探る

第2回：11月22日 文京区地域生活支援拠点の紹介をしながら、

各機関の連携を図る

第3回：令和7年2月21日 障害分野と介護分野の協働について検討

(3) 文京区地域生活安定化会議

<目的>

精神科未治療者や治療中断の可能性が高い者、通常の障害福祉サービスの利用ができない者等を対象とし、自宅への訪問や受診同行を行う

「にも包括」の構築にあたっては、**個別支援の検討の軸**に沿って検討

<実施予定>

年4回 (5月、8月、12月、2月)

<事業見直し>

令和6年度より、**精神科医**に出席いただき、事業者へ医療的側面からフォローすることで継続した支援体制の充実を図っている

- ①治療継続支援
- ②見守り支援
- ③伴走型支援
- ④地域生活継続支援
- ⑤関係機関の人材育成及び支援者支援**
- ⑥支援計画の立案及び計画的支援
- ⑦その他、利用者の生活安定のために必要な支援

< 困難ケース事例検討 >

■ 強固なこだわりや認知のゆがみがあるケースへの対応検討

< 事例検討で出た意見 >

- ・ 現実に役立つ方向に、本人の興味を向ける
- ・ 本人の困りごとと結びついた自己理解を深めるためのアプローチの検討
例：アンガーマネジメント、認知行動療法など
- ・ 東京法務少年支援センターの活用

< 課題 >

- 受診・服薬が安定しても、関わりの難しさは変わらない
- 関係構築の難しさ故に、特定支援者への負担が大きい

<終了ケース事例共有>

■安定化事業から計画相談の通院同行への切り替え事例

<事例共有で出た意見>

- ・事業を利用する中で、本人なりの受診スタイルを確立した
- ・本人支援だけではなく、家族支援にもつながる関わりになった
- ・ゆるやかなつながりを維持し、自立に向けた関わりを継続できる

<課題>

- 障害福祉サービスが終了すると、計画相談（通院同行）も終了となるため、終了を見越した関わりは今後も続く
- 計画相談として、すべての事業所が通院同行に対応できるわけではない